

ロイヤルエンフィールドジャパン
(総輸入発売元:ピーシーアイ株式会社)

2026年6月15日

PCI-RE2026015

新カラーバリエーションが登場。 ロイヤルエンフィールド、日本市場向け 2026年モデル 「HUNTER 350」に斬新な新色を追加。



- 「HUNTER 350」から、印象的な新色 Graphite Grey(グラファイト・グレイ)が登場。
- Graphite Grey(グラファイト・グレイ)のメーカー希望小売価格は、650,100 円(税込)。本日6月15日(月)より予約注文の受付を開始。

2026年6月15日：中型モーターサイクルセグメントのグローバルリーダーであるロイヤルエンフィールドは、2026年モデル「HUNTER 350(ハンター・サンゴーマル)」のラインナップを拡充。新たに「Graphite Grey(以下、グラファイト・グレイ)」カラーを追加し、2026年6月22日(月)より日本全国のロイヤルエンフィールド正規販売店にて受注を開始いたします。



この新しいカラーバリエーションの導入により、ロイヤルエンフィールドは、拡大を続ける HUNTER シリーズのコミュニティ「ハンター・トライブ」の輪をさらに拡大させ新たなライダーを迎え入れます。まず、ブランドが掲げる「Pure Motorcycling（ピュア・モーターサイクリング）」のスタイルと体験を、都市部にとどまらず、より幅広い層のライダーへ届けていきます。

都市のリズムに合わせて設計され、世界中のクールな街並みにインスピレーションを得て設計された「ハンター 350」。この軽量かつ軽快でスタイリッシュなその姿は、新世代のライダーをロイヤルエンフィールドの世界へと導いています。彼らが求めているのは、単なる都市移動ではありません。街とオートバイを通じて自分らしさを表現しています。

アジア太平洋地域事業責任者である Manoj Gajjarlawar (マノジ・ガジャールワール) は、HUNTER 350 の新しいカラーバリエーションについて次のように述べています。

「HUNTER 350 は、シンプルさ、使いやすさ、そして相棒としてのオートバイに強いアイデンティティを求める新世代のライダーたちから、引き続き大きな支持を得ています。新たに追加したグラフィイト・グレイは、より幅広いライダー層に親しみやすいプラットフォームを維持しつつ、日常的な魅力を高めることで、ハンター350 の魅力をさらに強化しました。これにより、HUNTER シリーズは日本全国でその存在感をさらに広げていくことでしょう。またグラフィイト・グレイは、HUNTER 350 を選ぶライダーたちの文化、個性、そして自己表現を反映する存在であることをさらに際立たせます。2026 年モデルの HUNTER 350 が、日本の新世代ライダーにとって象徴的なオートバイとしての地位を、今後も確固たるものにしていくと確信しています。」



新色：グラファイト・グレイ

自己表現のキャンバスとしての HUNTER のアイデンティティをさらに深めるべく、ロイヤルエンフィールドは「グラファイト・グレイ」をラインナップに加えました。

グラファイト・グレイは、都会のストリート・グラフィティから着想を得たカラー&グラフィック。ステルス感あふれる低いトーンを基調としながら、モダンな印象を造り上げました。そのなかに大胆なネオンイエローを注ぎ込むことで、強烈なインパクトを放ちます。ストリートの「今」を体現する、アティチュードを纏うためのルックです。

新型「HUNTER 350(ハンター・サンゴーマル)」のグラファイト・グレイは、2026年6月22日(月)より、全国のロイヤルエンフィールド正規販売店において受注を開始いたします。



HUNTER 350
GRAPHITE GREY (グラファイト・グレイ)
650,100 円 (税込)

※記載の価格は全てメーカー希望小売価格 (税込)

※新車登録 (届出) より 3 年間 (走行距離無制限) 保証

<ロイヤルエンフィールドについて>

1901年の創業以来、ロイヤルエンフィールドは美しいオートバイを作り続けてきた二輪車ブランドです。そのルーツは英国にあり、1955年にマドラス(現チェンナイ)に製造工場を設立。以来ロイヤルエンフィールドは、インドのミッドサイズ・モーターサイクルセグメントの成長を牽引してきました。ロイヤルエンフィールドのモーターサイクルは、美しく、シンプルで親しみやすく、ライディングする楽しさに溢れた乗り物である。それは我々ロイヤルエンフィールドが、自らを『Pure Motorcycling/ピュア・モーターサイクリング』と呼ぶ由縁です。

ロイヤルエンフィールドのプレミアムラインナップには、クルーザーの「METEOR 350(メテオ・サンゴーマル)」、650パラレルツインモーターサイクルの「CLASSIC 650(クラシック・ロクゴーマル)」「SUPER METEOR 650(スーパー・メテオ・ロクゴーマル)」、「INT650(アイエヌティ・ロクゴーマル)」、「CONTINENTAL GT650(コンチネンタル・ジーティー・ロクゴーマル)」、アドベンチャー・モーターサイクルでは「HIMALAYAN 450(ヒマラヤ・ヨンゴーマル)」、アイコンックな「GOAN CLASSIC 350(ゴアンクラシック・サンゴーマル)」「BULLET 350(ブリット・サンゴーマル)」、「CLASSIC 350(クラシック・サンゴーマル)」があります。また我々は2024年に、新しいシティ&電動モーターサイクルブランド『FLYING FLEA(フライング・フリー)』を発表しました。それはモダンなデザインと先進技術を融合させた、都市型モビリティカテゴリーにおける我々の新たなチャレンジでもあります。

また我々ロイヤルエンフィールドは、世界各地でモーターサイクルイベントを企画しています。とくに、毎年11月にインド西海岸のリゾート地ゴアの美しいビーチに、世界中からロイヤルエンフィールド・ライダーが集まるイベント「Motoverse(モトバース)」や、ヒマラヤ山脈の高地を走る「Himalayan Odyssey(ヒマラヤン・オデッセイ)」が有名です。世界中の人々がロイヤルエンフィールドを走らせる世界同日開催のライディングイベント「One Ride(ワンライド)」も実施しています。

インドのトラック大手 Eicher Motors Limited(アイシャーマーターズ・リミテッド)の一部門であるロイヤルエンフィールドは、インドの主要都市に2000以上の店舗を構え、世界60カ国以上に850近い店舗を展開しています。また、ロイヤルエンフィールドは、英国のブランディングソープとインドのチェンナイに2つのテクニカルセンターを有し、インドの都市チェンナイ近郊のオラガダムとヴァラムヴァダガルに2つの最新鋭の生産施設を運用しているほか、バングラデシュ、ネパール、ブラジル、タイ、アルゼンチン、コロンビアの6ヶ所に近代的なCKD(コンプリート・ノック・ダウン)組立工場も有しています。

ロイヤルエンフィールドのブランドや製品に関する詳細は下記公式ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.royalenfield.co.jp>

全国のROYAL ENFIELD 正規販売店は下記よりご確認いただけます。

<https://www.royalenfield.co.jp/dealers/>

本件に関するお問い合わせ先：ロイヤルエンフィールドジャパン(総輸入発売元:ピーシーアイ株式会社)

<https://www.royalenfield.co.jp>